

8月セミナーを8月17日(土) 13:30~15:30に開催しました。

会場 愛知文教大学 201教室

テーマ 「小学校社会科を考える」

授業者 小牧市立米野小学校 須賀康平先生

コメンテーター 学び合う学び研究所シニアフェロー 副島 孝先生

本日のセミナーで学んだ中で重要だと思ったことは、教科の「真正の学び」を考えるです。一つの授業を通して、どんな学びを追求するのかを探る講演の流れは、とても新鮮でした。授業者が自己紹介で仰っていた、子供の声「いつも先生は気づいたことない」と聴くが、何を気づき、考えていいのか分らない」という声から、子供たちが学び方を身につける授業展開へと改善しようとしているという考え方は、とても素晴らしいと思った。学び合う学びというが、何を子供たちに学ばせるのかが不明確な授業もある中、大切な観点だと感じた。最後のコメンテーターからのリフレクションがとても興味深かった。オーストラリアの投票率が高い根拠を自分なりに追究してみたという話は、まさにそんな子供を育てたいという願いがあるように感じた。お二人による素敵な会をありがとうございました。

本日のセミナーで学んだ中で重要だと思ったことは、メタ認知です。連日の猛暑の中、とても深い学びができた事に感謝いたします。正解のない問いを自分事にするとはとても授業力が必要になることを実感しました。授業をデザインすることは、課題と資料が決定的に重要だと思いました。9月からの授業で、いかに子ども達が探究していける資料を探していきたいと思いました。毎回、とても勉強になります。今後ともよろしく願います。

本日のセミナーで学んだ中で重要だと思ったことは、社会科は「課題と資料が重要」という佐藤学さんの言葉です。各グループからの話し合い報告を聞きながら、自分は逐語記録を読み取る力が不十分だと自覚できたこととで有難い。副島先生が須賀先生の授業をどうまとめられ、提言されるのかに一番の関心をもっていたが、副島先生ご自身の「真正の学び」の一端を披露していただけたことで、大いに刺激をいただけ、充実した2時間となった。感謝したい。

本日のセミナーで学んだ中で重要だと思ったことは、Discourseです。副島先生、須賀先生ありがとうございました。あっという間に時間が過ぎました。「逐語記録から学ぶ」たのしさを「授業で育つ教師の会」等で副島先生から学びました。でも、まだまだ「身につく」までは至っていない自分を「メタ認知」しました。さらなる修業が必要だとリフレクションしています。7月の林先生のセミナーとの共通テーマが「メタ認知」。副島先生からは林先生と真逆の「ビデオを見ずに逐語記録だけから学び合いましょう」と、かなり質の高い、真正の学びに向かう課題が提示されました。皆さんのお話を聴き、談話の中から、昨年一年間、米野小の子どもと学んだ日からずっと感じている「米野小・・・は何かがちがう」という肌感覚の「差異」が少し言葉になりそうな気がしています。

本日のセミナーで学んだ中で重要だと思ったことは、資料の見方、提示の仕方です。

逐語記録から学ぶ機会は今までなかったのでよい経験になりました。子ども達がよく考え、よい雰囲気ですべて学んでいる様子は文字からも見て取れましたが、後で見たビデオで確認することが出来ました。

冒頭に、授業者から社会の授業をするにあたって、資料を与えても見方が分からない児童がいる。使い方を学ぶことをきっかけに資料を使うおもしろさに気付かせたい、こういった話がありました。なるほどと思いました。自分の経験からも、資料から何が分かるか問う場面で、気付かせる以前にどのように見たらよいのか、見方そのものが分からないという生徒に多く出くわしたことを思い出しました。資料が大切であることは言うまでもありませんが、教師の都合や意図が見え見えのものではなく、子ども達にとっての最適な資料でなくてはならないことを学びました。

そういう視点から資料を見ると資料2からはなぜ令和4年は投票率が下がったのか、資料3で言えばなぜ20代は33%と低いのかという素朴な疑問が出てきても不思議ではないように思いました。また、資料5では全くという表現に気付いたA君もいますが、理解の遅い子にとってはややわかりにくいこのグラフの見方を、こういう時にこそ確認し合う場面があってもよかったのかも知れません。

資料の提示を具体的にどのようにされたのかよく分かりませんでした。見方と同じように、どのように提示するのも重要ではないかと思いました。よい学びの機会を与えていただきました。ありがとうございました。

本日のセミナーで学んだ中で重要だと思ったことは、本時のねらいを達成するために、どんな課題をどう提示するかが重要だと思いました。

授業者が介入し過ぎては、子どもが育たない。子どもの力を信じて、思いっきり委ねる授業に挑戦してみたいと思いました。ありがとうございました。

本日のセミナーで学んだ中で重要だと思ったことは、逐語記録の読み取り方です。

逐語記録を読んで授業研究をする際に、誰の発言か、それによって議論がどのように進んだかという見方ができなかった。できるようにするには少し時間をかけて記録を解析する必要がある。

オープンエンドな議論をさせるときに、あまり意図的に誘導するのもよくないが、議論の流れに即応してコントロールするのは難しい。それができるようになるために、普段の授業では見逃すような発言にも注意して、どのような問いかけをするのがよいかを考えていくために、逐語記録を活用するとよいと思った。

本日のセミナーで学んだ中で重要だと思ったことは、課題と資料です。

最近、授業ビデオを見ながら、補助的に授業記録を見るが多かったので、久しぶりに文字だけで、授業を追いました。副島先生がおっしゃったように、この児童の発言は、どこから？どんな繋がり？とかなりの想像力が必要でした。でもこの想像力が、私たち教員の教材や資料、そして児童を観る力を伸ばしてくれるものではないかと思いました。

他の国の選挙に関する資料がありましたが、私もスマホで検索してみたら、ベルギーも義務制で、投票の義務を怠った場合、2年目は罰金が2倍になったり、4回以上怠ると選挙権を失ったり、公職に就けなくなったりすることがわかり、思わず「えーっ！」と声をあげてしま

いました。そこまで、厳格にする背景は何だろう？と興味がわいてきました。

この授業、まだまだ児童の思考を広げてうける可能性があると思いました。

本日のセミナーで学んだ中で重要だと思ったことは、投票率向上ではなく、選挙の意味を知ることが大事な学習です。

発言番号 15 の児童 P が、「自分がいい人がいたら行こうかなと思うけど、・・・」と言っていたのが、発言番号 143 では、「政治の勉強をもっとくわしくしようかなと思った」という P の変容に興味をもちました。

なぜ、変容したかについて、2通りの予想をたてました。

一つ目は、「自分がいい人がいたら行こう」というのは、だれかを選ぶという人気投票のような考え方だということです。子どもたちが経験したのは、学級委員や児童会長選挙であります。いずれも自分の気に入った人を選んできたからではないでしょうか。しかし、政治の選挙とは、違うことに気がついたと考えます。

二つ目は、オーストラリアが、投票が義務であり罰金が出るとの情報から、101O「適当に票を入れてちゃって、もしかしたら国がたいへんなことになる」、105A「強制的な投票って感じだから、あんまりいい人を真面目に選んでいない」、128T「オーストラリアは興味のある若者は 30%って書いてあって、投票率は 90%ってことは、やっぱり若者はお金目当てで適当に投票している」、142B「(立候補者の言っていることの) 意味が分かんないから、投票する数が少なくなってしまうから。自分だけでも意味がわかっていて、僕の 1 票でも選べられたら嬉しい」といった意見がでました。それらの発表から、「もしかしたら国がたいへんなことになる」と考え、P の意見が変わったかもしれせん。もしかしたら、143B の意見の影響を受けただけの発言かもしれせん。

オーストラリアの選挙に罰金があるということから、選挙の重要性や選挙の危険性に気づくことができたというのが、とても良い授業だと思います。

投票率を上げるために、高校で模擬選挙を行うことについて意見がありましたが、選挙に行くということだけを取り上げても、子どもたちは成長しないと思います。「適当に票を入れてちゃって、もしかしたら国がたいへんなことになる」ということに対する危機感を、子どもたち自身が気づいていくことに意味があると思います。

選挙をすることの本質的な意味を考えさせることができた授業だと思います。